

五月人形



日本人の美意識



1-1) 力石甲人作 曙威鎧



1-2) 力石甲人作 曙威鎧 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ55cm)



曙威(あけぼのおどし)

夜明け前、朝日の昇る30分前の空の色です。暗闇から、だんだんと上に行くほど明るくなる情景です。つまり難を転じる変化、また始まりを意味し、縁起のよい配色です。



忍び緒(兜の緒)は鮮やかな赤色です。忍び緒だけではなく、韋所(かわどころ)の周囲の小縁(こべり)も赤色と決まっています。これは配色がきれいだけでなく、古来より赤色には魔除けの効果があるとされてきたためです。

甲冑の歴史、戦いの道具から美術工芸品への昇華

武器甲冑、そのルーツをたどれば戦争すなわち争いごとに用いられた道具にすぎませんでした。

大陸から甲冑の文化が伝わり、平安の世を経てそれは日本独自の美意識が融合した一つの芸術文化へと発展し、鎌倉時代に彫金・染色・皮革すべての工芸の分野において最高の頂に登りつめました。当時の権力者が、儀式や祭典などに着用する晴れ着として制作させたのです。

しかし、その後戦国時代に入り、再び工芸の頂点を極めることはありませんでした。敵を威嚇する奇抜な意匠となり、実用本位の戦いの道具に衰退していったのです。

平安・鎌倉期の大鎧は、工芸の水準の高さから国宝として数多く指定されており、国内ばかりでなく海外でも、その評価は非常に高いものがあります。

ご紹介の作品は、これらの国宝甲冑の美しい造形と配色をベースに、力石甲人・力石鎧秀独自の芸術性が加えられています。日本人の美意識が令和の世に見事に甦りました。

いうまでもなく、お節句はお子様のお祝いであり、五月人形は身を守るお守りです。このような芸術性豊かな作品を飾ることは、単に美しいものを鑑賞するというだけではなく、お節句の意味としても理にかなっていることといえます。

美

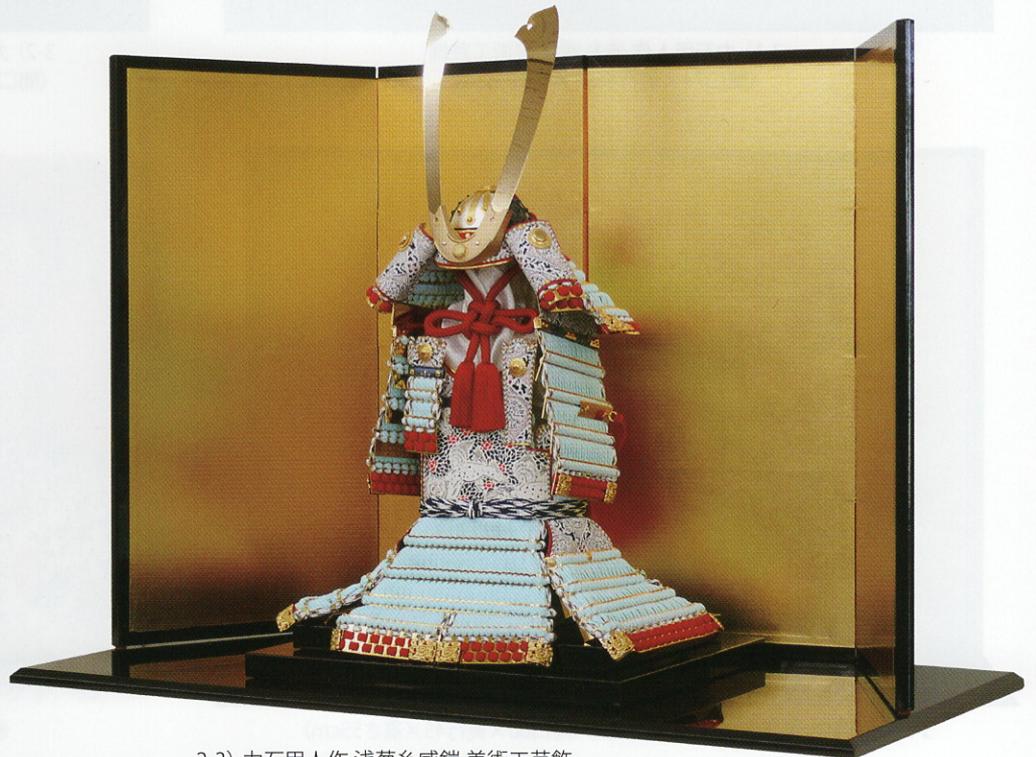


東京都御岳神社所蔵 重文鎌倉期大鎧の配色
2-1) 力石甲人作 紫裾濃威鎧 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ55cm)

力石作品は、このような専用ケース(オプション)に入れて、一年中お楽しみいただけます。



2-2) 力石甲人作 白糸威鎧 鏡ケース飾
(間口53×奥行37×高さ59.5cm)



2-3) 力石甲人作 浅葱糸威鎧 美術工芸飾
(間口80×奥行40×高さ56.5cm)

金びょうぶと緑のもうせん

金色は、永遠の輝きを放つ太陽の象徴として、古今東西、最高の色として人々の心を魅了し続けています。日本においても、古来より、金属に鍍金したり、金箔に加工して建造物や内装にも使われてきました。豊かに実った稲穂をも象徴しており、特に結婚式などのおめでたい席には、金箔を貼ったびょうぶが欠かせません。四曲や八曲の折りたたみになっているのは、四方八方から、つまりあらゆる方向から照らされることによって、太陽の無限のパワーにあやかするためです。

緑色は、若葉の萌え出る色で、強い生命力を象徴しています。また、青竹の色で、天に向かって真っ直ぐ伸びるところから、健

やかにすすくと真っ直ぐに育ちますようにとの親の願いでもあります。

端午の節句は、わが子が心身ともに健やかに成長するようにと願う厳かで神聖な行事ですから、五月人形を金びょうぶと緑色のもうせんで飾ってお祝いすることは自然なことであるとともに、とても意義深いことなのです。

美術工芸飾りは、その形の美しさ・色彩のきれいさが一番引き立つように、あえて鎧櫃(よろいびつ=鎧の入れ物)の上に乗せない、あくまでもシンプルな屏風だけの飾り方です。いつまでも飽きることなくすっきりときれいに鑑賞できます。

紺糸威のほかに、白糸威と赤糸威がございます



3-1) 力石甲人作 赤糸威鎧 美術工芸飾
(間口74×奥行46×高さ71.5cm)



3-2) 力石甲人作 紺糸威鎧 収納箱飾
(間口49×奥行33.5×高さ70.5cm)



3-3) 力石甲人作 赤糸威鎧 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ55cm)



きれいな編み目をご覧ください



金物類24純金鍍金

力石作品のすべての鎧兜の金色の金物は、特殊合金の表面に銅、ニッケルをメッキして純金メッキしてありますので耐久性に優れ、いつまでも美しく輝きます。なお、黒い金物は金属の表面を化学的に変性させております(黒色メッキ)。黒い塗料を塗っているものではありませんので自然にはがれることがありません。



弦走韋(つるばしりがわ)

弓の弦(つる)が引っかかるのを防ぐために張られた胸正面の韋(かわ)のことです。鹿韋は繊維が細かく非常に強靱なので、昔から武具に多く用いられました。この写真は鎌倉時代に多くデザインされた不動明王の文様です。魔よけの意味があります。弦走韋は鎧の全作品に装備しています。



背面の逆板(さかいた)

鎧の背中です。中央の金色の金具が取り付けられている横長の板の部分が逆板です。袖の調節機能、心臓部の二重の防御、そして後ろ姿もきれいに见せるために国宝鎧には必ず装備されています。その逆板を時代考証に忠実に再現しています。逆板は鎧の全作品に装備しています。



蝙蝠付(こうもりづけ)

左の腰のあたりの写真です。中央の白い絵韋(えがわ)の部分を蝙蝠付といいます。鎧の腰の下は、前後左右四つに分かれています。前後は鞍(くら)で重量を支えられますが左右は垂れ下りますので、その重量を補強するために装備しているものです。蝙蝠付は鎧の一部作品に装備しています。

極

日本の伝統的端午の節句、日本人には大切な伝統文化のひとつです。本来、鎧・兜は武士の晴れ着です。平安、鎌倉、室町期に大將のファッションとして素晴らしい甲冑が創られ、今世界的に日本の国宝甲冑は世界に類がない美術品として絶賛されています。お節句で求める鎧・兜も、お子様のためと大人が美術品として両方で楽しむものです。お部屋の中に美しい色目の甲冑をインテリアとして飾ったとき、きっと芸術の風が心を和ませるでしょう。そして美しいものを愛せる、やさしくぜいたくな「遊び心」を持ち続けたいものです。



4-1) 力石甲人作 赤糸威鎧



4-2) 力石甲人作 紫裾濃威鎧

編み目と裏側の処理の綺麗さ

糸(組み紐)の編み目は、さながら魚のうろこが重なっているように、隣同士の糸の重なり具合がきれいです。幅が約1cmの組み紐を直径約3mmの穴に通して仕上げていますので穴の隙間が見えません。

編み目は鎧や兜の製作の基本であり、その綺麗さは職人の技術の見せ所です。単にその部分が美しいかどうかだけではなく、兜のしころ(後ろの部分)の形状の美しさに大きく影響を与えます。

小札頭(こざねがしら=金具の頭の部分)が、糸の上部からあまり出ていないところにもご注目ください。

全体の色目がきれいに見える大きなポイントです。組み紐を小札(こざね=金具)に通すときにどこかにつなぎ目ができます。一般品の多くは製作時間を短縮してコストを下げるために、目にするのしない裏側で組み紐を切断して糊付けがしてあります。たとえ裏側でもひっくり返せば見えるところですから、力石作品はつなぎ目がわからないように綺麗に処理しています。これは袖だけではなく、兜の裏側や草摺の裏側も同じです。こだわりの職人ならではの一流の仕事です。

本物志向の極

極限の美に挑戦



満天の星兜鉢

5-1) 力石鎧秀作 赤糸威沢瀉兜 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ45.5cm)



二方白兜鉢

5-2) 力石甲人作 赤糸威兜 美術工芸飾 (間口74×奥行46×高さ64cm)



雲龍文鍬形台

5-3) 力石甲人作 赤糸威獅嚙彫金兜 美術工芸飾 (間口61×奥行41×高さ46cm)



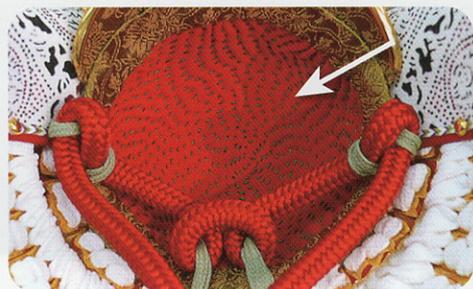
5-4) 力石甲人作 白糸威兜 鏡ケース飾 (間口44.5×奥行34×高さ48.5cm)



6-2) 力石甲人作 曙威兜 美術工芸飾り
(間口61×奥行41×高さ46cm)

6-1) 力石甲人作 曙威菊獅嚙兜

挑



鉢裏の刺子

写真は鉢裏を裏側から撮ったものです。赤い布に刺し子を施し、浮き張りにしています。後ろ側や裏など見えなところにも丁寧な仕事をしているのが一流の証です。忍緒の結び方も力石甲人・鎧秀作品は本格的です。



伏組(ふせぐみ)と小縁(こべり)

左回りの矢印状にみえる規則正しい模様が伏組です。韋所の周囲はこの伏組を配し、その外側に赤い小縁を配するという時代考証に忠実な作りです。兜の後部(しころと呼ぶ編み目の所)も富士山のすそ野のようなひろがりが見事です。

編み目の美しさと全体の造形美・時代考証に忠実で頑丈なつくり・深みのある24純金鍍金の金具
これらが力石作品すべてに共通の特長ですが、兜の種類により下記のように鉢も精緻で種類も多様です



究



7-1) 力石甲人作 春日獅囓赤糸威兜 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ45.5cm)



7-2) 力石甲人作 紫裾濃威兜 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ39.5cm)

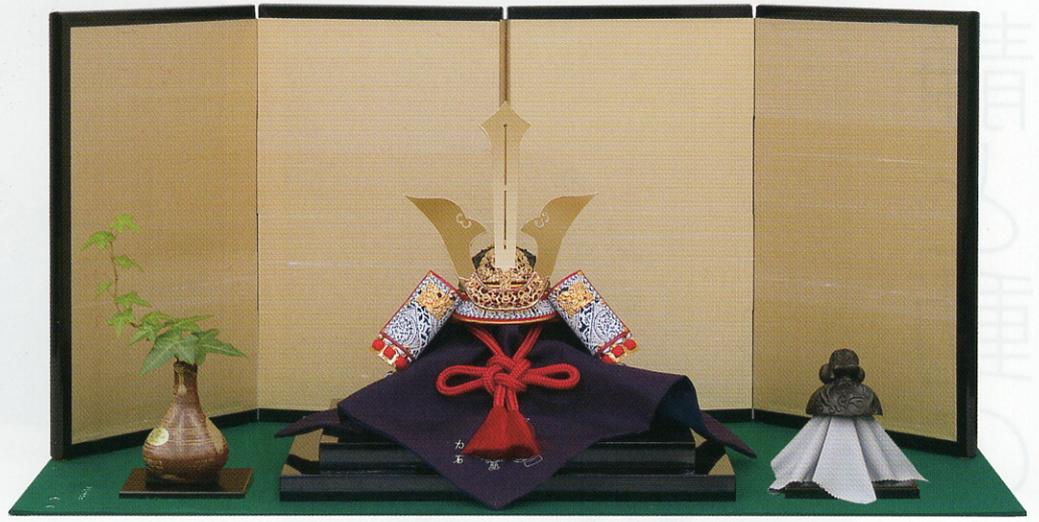


屏風台の共用

絵柄のないシンプルな びょうぶ台なら、写真のようにひな人形も五月人形と同じステージで飾ることができます。
このページにある緑の毛せんの飾り方でも、赤の毛せんに換えてぼんぼりを両脇に飾れば違和感なくひな人形のステージにできます。

7-3) 力石甲人作 赤糸威兜 美術工芸飾 (間口59×奥行30×高さ34.5cm)

国宝の鎧兜は、それが完成した当時は、まばゆいばかりの色彩と、純金鍍金の金具が美しい光沢を放っていました。まさに武将の晴れ着です。それぞれの色には意味があり、当時の武将が自分の志を色で表わし、甲冑師にオーダーメイドで作らせたのです。



8-1) 力石甲人作 紫糸威兜 美術工芸飾 (間口80×奥行45×高さ39.5cm)

技と美の追究



八幡座

兜のてっぺんは、八幡座と呼ばれています。名称からも分かるように神のご加護がありますよとの「お守り」の意味があります。四枚の美しい金具が組み合わさっています。

- 玉縁(たまぶち)
- 刻座(きざみざ)
- 菊座(きくざ)
- 葵座(あおいざ)



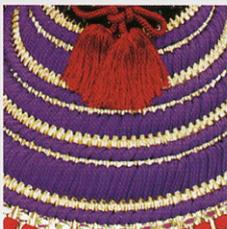
8-2) 力石甲人作 浅葱肩白威兜 美術工芸飾 (間口75×奥行44×高さ52cm)

平安・鎌倉期の鎧兜の代表的な色目



赤糸威

赤は活力・すべての生命の源をあらわす太陽の色です。現存する国宝鎧に最も多く使われています。また、魔除けの色でもあり神社の鳥居やひな段の毛せんが赤いのもそうです。



紫糸威

聖徳太子が、冠位十二階の制度を設けたとき、最高の位の象徴として定めた色です。高貴な色で房や菱縫いの赤色との配色の対比が見事です。



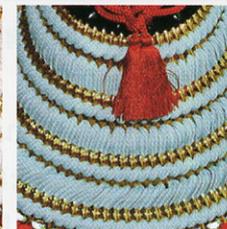
紺糸威

古くは深縹(ふかきはなだ)と呼ばれ、藍染めを繰り返すことで得られる上品な濃紺です。藍染めには殺菌防虫効果があるところから魔除けの意味を持ち、国宝鎧も現存します。



白糸威

純白はほかの色に染まらない、すなわち自分の意志を貫くという「何事にも動じない強靱な意志」を表現します。とても気品のある色です。



浅葱糸威

まさに晴れ渡り澄み切った大空のように大きな心を感じさせます。厳島神社に国宝でこの色目の大鎧(浅葱綾威大鎧)が現存します。日本人の美意識を感じます。



紫裾濃威

菖蒲の持つ色彩をデザインした色目です。菖蒲は薬草としても優れているところから魔除けの意味、そして尚武に通じるところから多くの武将に愛用された色彩です。

静と動の世界



9-1) 白糸威大鎧 逸品飾り



9-2) 赤糸威兜 逸品飾り

逸品飾り



9-3) 紫裾濃大鎧 逸品飾り



9-4) 浅葱糸威兜 逸品飾り

「素を遺すという、あの墨絵の余白が、そのまま空になり、水になり、雪になる。あの神秘不可思議は東洋人のみ知る恍惚境だ。」日本画家、横山大観の言葉です。

余白の美、引き算省略の美には、茶道・俳句の世界でも表現されています。日本庭園には水を感じさせるために水を抜く「枯山水」などの例もあります。

逸品飾り あえてびょうぶを置かないという選択

五月人形を飾った時の美しさには『豪華絢爛の美』と『静寂・余白の美』の二種類があります。

『豪華絢爛の美』とは、西洋の絵画で例えればルネッサンス以降多くの作品にみられる びっしりと画面を埋める技法が特徴であり、五月人形においては屏風や台にも賑やかに装飾を施し外見的なインパクトを重視した飾り方です。

『静寂・余白の美』とは、物を豪華に増やして華やかに美しさを見せるのとは対照的に、あえて余白を残す(びょうぶなどを置かない)ことでそこにあるものを心で感じるという考え方で、見る人の数だけ見方が無限に存在し、豪華な飾り方とは

一線を引く奥深さ、趣などを持たせる飾り方です。

逸品飾りには「想像の余地が残る」という魅力と「作品の核心部分をより印象的に見せる」という二つの魅力があります。

「無」を作ることにより「無限」を表現する。まさに「静と動」の世界です。

逸品飾りとは、繊細かつ控えめでありながら、どこか筋が通った主張を感じる独特な空気感や趣が、余白の余裕とともに美を心に感じさせる飾り方です。

余分なものにコストをかけない、究極のコンパクト収納が可能な飾り方でもあります。

最高の贅沢、静と動 究極の美を追究

正面から見た時に、びょうぶ飾りの場合は四角いびょうぶの枠に囲まれた限られた飾り（世界）となります。逸品飾りはびょうぶがないために、背景周囲すべてが五月人形の飾り（世界）の一部として捉えることができます。飾るスペースは少なくなくて済むのに、自由でゆったりとした時空間の広がりを感じることができます。究極の美・最高の贅沢をお楽しみください。



手描き彩色の美

蝶と牡丹

お子様にも分かりやすい動植物の絵が語りかける物語を通して、自然について学ぶきっかけにさせていただきたいという想いで制作された作品です。

人形彩色アーティスト 竹垣 諒



- 平成 3年 静岡県に生まれる。
- 平成23年 東京造形大学に入学。
グラフィックデザインを学ぶ。
- 平成26年 キッズサイズデザインセミナーに所属。
- 平成27年 同大学を卒業後、髷楽人形工房に所属。
- 同年 石黒甲世氏に師事し雛人形の基礎、及び「ふるさと雛の心得」を学ぶ。
- 同年 石川潤平氏監修のもとに総手描彩色雛を発表。
- 同年 G7伊勢志摩サミットを記念して三重県ふるさと彩色雛、英虞湾景観屏風を発表。
- 平成28年 北海道ふるさと彩色雛、知床景観屏風を発表。

10-1) 白糸威兜 彩色

笹目技法

笹目技法 — 薄墨を重ねて濃淡をつけながら、片目で50本以上の筆をいれ、瞳を表現することによって、目に奥行きとやさしさが生まれます。また見る角度によつてさまざまな表情が楽しめます。



11-1) 石川潤平作 おぼこ大将 総木目込



11-2) 石川潤平作 おぼこ大将 もののふ



11-5) 石川潤平作 おぼこ大将 小



11-4) 石川潤平作 おぼこ大将 大 曙 (間口65×奥行43×高さ46cm)

卓越した存在感

卓



12-1) 石川潤平作 おぼこ大将 総木目込 盛上彩色



12-2) 石川潤平作 おぼこ大将 たくみ



12-3) 石川潤平作 八幡太郎



12-4) 石川潤平作 おぼこ大将 大手書き柁目 紫裾濃 (間口80×奥行45×高さ40.5cm)



13-1) 石川佳正作 おさな大将 純金箔盛上彩色



彩色(純金箔盛上彩色)

伝統的な素材の胡粉を筆で高く盛上げ、乾いた後、漆を塗ります。漆が乾ききらない絶妙のタイミングで純金箔を載せませす。最後に絵の具で彩色して完成します。

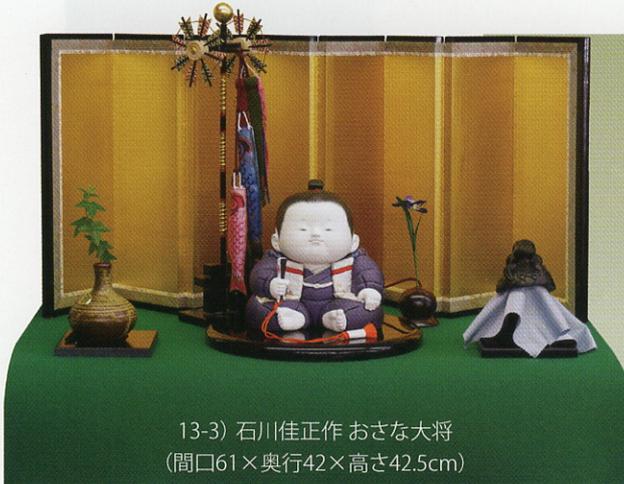
技

歳月を経るごとに輝きを増す
名匠が作り上げた本物のお人形

13-2) 石川佳正作 竹千代



人形彫刻の美



13-3) 石川佳正作 おさな大将
(間口61×奥行42×高さ42.5cm)



13-4) 石川佳正作 おさな大将

江戸おさな大将

確かな技術を持つ唯一無二の女流創作人形作家の鶴屋半兵衛が女性目線で制作した衣裳着の可愛い五月人形です。お顔や指の表面は江戸時代からの伝統技法である胡粉塗り仕上げを採用、目は量産タイプの安価なガラスの義眼ではなく、職人が筆一本で仕上げる手書き枠目と、こだわりの仕様です。



14-1) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 毛吹き 逸品飾 (間口45×奥行35cm)



14-2) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 書き毛びょうぶ飾 (間口60×奥行40×高さ33.5cm)



14-3) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 口結び 大 (前幅61×奥行42×高さ39cm)



14-4) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 口結び 大



14-5) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 口結び 小



14-6) 鶴屋半兵衛作 江戸おさな大将 口結び 大 腰掛

端午の節句



15-1) 磊 (RAI) 作 御所おさな千年の雅



15-2) 磊 (RAI) 作 出藍の誉

季節の移り変わりの中でその節目に行われるのが日本の伝統文化のお節句です。年輪のごとく家族での思い出を刻み、成長を祝います。卓越の匠が作り出す優しい表情のお人形たちがそのお手伝いをさせていただきます。

初節句おめでとうございます。お子様の健やかなご成長をお祈り申し上げます。



美術甲冑作家

ちからいし がいしゅう ちからいし こうじん
力石 鎧秀・力石 甲人



江戸木目込人形作家

いしかわ じゅんぺい
石川 潤平



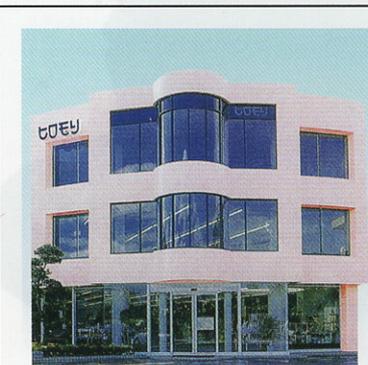
おさな人形作家

つるや はんぺい
鶴屋 半兵衛



創作人形作家

いしかわ よしまさ らい
石川 佳正・磊



三重県下最大 人形専門店

人形の
ヒロモリ

鈴鹿市南江島町18-30

☎ 059-386-5030

人形 ヒロモリ 検索

